

# かくも長き不在

観賞日 2022年4月11日

## 【概要】

制作 1961年 フランス 上映時間 98分

監督 アンリ・コルピ

脚本 マルグリット・デュラス、ジェラルド・ジャロク

音楽 ジョルジュ・ドルリュ

撮影 マルセル・ウェイス

出演 アリダ・ヴァリ（テレーズ・ラングロワ）、ジョルジュ・ウィルソン（浮浪者）  
ジャック・アルダン（ピエール）



## 【あらすじ】

1960年7月、パリ祭当日。テレーズ・ラングロワはパリでカフェを営む中年女性。テレーズにはピエールという恋人がいる。翌日、店の前を通りかかった粗末な身なりの男を見かけたテレーズは仰天する。その男が16年前にグシュタポに連行され行方不明となっていた夫のアルベールにそっくりだったのだ。男の後を追うテレーズ。しかし男は過去の記憶をなくしていた。男は捨てられた雑誌を収集、販売して生計を立てていた。ある日、テレーズは男が良く口ずさむ音楽をかけて、店の前を通る男を店に誘い込んだ。店には客を装いアルベールをよく知る近親者を待機させ、テレーズはわざと男に聞こえるように身の上話をし、男の反応をみた。アルベールに間違いないと語るテレーズに対し、近親者は違うと反論。再びやって来た男をテレーズは精一杯もてなし、過去の記憶を辿らせる。ディナーも終わり店を出た男にテレーズは「アルベール・ラングロワ」と叫ぶ。すると、男は突然走り出して・・・。

衝撃のラスト・シーン。戦闘シーンのない反戦映画。切ないラブストーリー。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●アリダ・ヴァリ（1921年～2006年）

- ・イタリア生まれ。1935年、銀幕デビュー、戦後、ハリウッドデビュー
- ・代表作：「第三の男」（1949年）、「夏の嵐」（1954年）、本作
- ・ヴェネツィア国際映画祭栄誉金獅子賞受賞（1997年）

#### ●受賞

カンヌ国際映画祭：第14回パルム・ドール受賞

キネマ旬報：1964年外国映画ベスト・ワン

### ■見どころ

#### ●衝撃のラスト・シーン：男は果たして夫だったのか？

判断は観客に任せるようにしているが・・・

#### ●映画史に残る名シーンといわれるダンスシーン

#### ●テレーズと浮浪者の対照的な目力

